

内容： 目利きが選ぶ今週の3冊 宇宙は本当にひとつなのか

媒体名： 日本経済新聞

年月日： 2011年7月27日(水) 夕刊 13面

東京大学国際高等研究所数物連携宇宙研究機構

目利きが選ぶ今週の3冊

(★★★★★これを読まなくては損をする、★★★★読みごたえたっぷり、お勧め)
★★★読みごたえあり、★★価格の価値はあり、★話題作だが、ピンとこなかった)

竹内薫
サイエンスライター

宇宙は本当にひとつなのか
村山斉著



(講談社ブルーバックス

・820円)



むしろ、本題よりも副題(最新宇宙論入門)のほうで、この本の中身を忠実にあらわしている。素粒子・宇宙論研究の第一人者による入門書。本書の前半は、太陽系や銀河といった、宇宙の基礎知識から始まり、やがて、宇宙の命運を左右する「暗黒物質」へと話が進む。10年ほど前までは、宇宙がどのようなモノからできているのか、よくわかっていなかった。でも、宇宙観測技術の進展はさまざま、今では、われわれの身近にある物質は、宇宙全体のエネルギーの4%を占めるにすぎないことが判明してい

宇宙は本当にひとつなのか

最新のシナリオに白熱

る。驚くべきことに、残りの96%は、正体不明の暗黒物質(23%)と、やはり未知の暗黒エネルギー(73%)なのだ。後半部では、空間の方向が縦、横、高さ以外にも「たくさん」ある、多次元宇宙の話や、われわれの宇宙以外にも、10の500乗個もの並行宇宙が存在する、という説などがSFと見まがうばかりの宇宙論の「シナリオ」が紹介される。各章末にある質疑応答は、カルチャーセンターでの白熱したやりとりを彷彿とさせ、臨場感あふれている。宇宙好きのあなたにオススメです。

(竹内薫)